



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

| | |
|------------|---|
| Title | 第2章教育満足度の現況 |
| Author(s) | 山田, 美都雄 |
| Citation | 琉球大学大学教育センター報 = University Education Center Bulletin(15): 7-10 |
| Issue Date | 2012-07 |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/41265 |
| Rights | |

第2章 教育満足度の現況

山田美都雄 (URGCC 推進支援室研究員)

1. 本章の目的

本章では、本学の大学教育に対する学生の満足度について概観する。学生による大学教育への満足度は、学生の立場から見た大学教育の評価指標であり、大学における教育が学生にどれほど寄与しているのかを知るための重要な指標（間接評価指標）として位置づけることができる。また、この指標は大学教育の質保証という今日的文脈において度々参照される指標でもある。

ここでは、全学的に行われる共通教育と学部における専門教育に関して、学生がどれほどの満足度を示しているのかについて着目する。共通教育と専門教育は、日本の大学教育における二大構成要素として位置づけられ、それゆえにこの二種の教育への満足度分析を行うことで、教育タイプに応じた学生の認識の相違を知ることができる。

以後の分析では、それぞれの教育について、学生全体、男女別、学年別の順に見ていく。ただしその際、それらの教育を「受けたことがない」場合は無回答として扱っている。また、学年別の分析においては、1～4年次までを対象とし、医学部の5、6年次は対象外としている。

2. 共通教育についての満足度

(1) 学生全体

まず、学生全体の共通教育の満足度について見てみよう。分析結果を図2-1に示した。この図に見るように、「満足している」と回答したのは全体の7割弱（68.4%）にまで達している。このことから多くの学生は、本学の共通教育にある程度の満足感を持っていると言えよう。しかし、強い肯定を示した学生、すなわち「とても満足している」と回答した学生の割合は、7.6%に留まっていることから、「満足している」と答えた学生の大半は、「なんとなく」満足しているといった水準に止まっていると考えることができる。

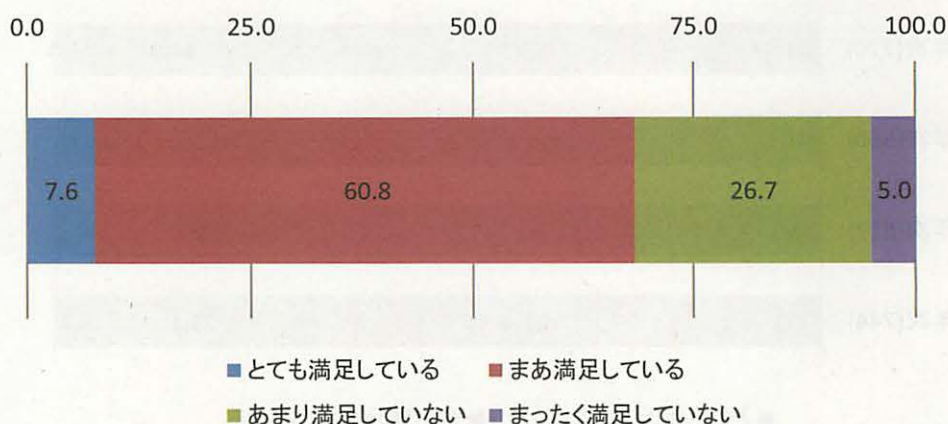


図2-1 共通教育についての学生全体満足度 (N=2805)

(2) 男女別の分析

次に、男女別に共通教育の満足度について見てみよう。図2-2を見ると、共通教育に関する満足度は、女性の方が10ポイントほど高いことが分かる。ただし、大きな差が出ているのは「まあ満足している」のレベルであり、「とても満足している」のレベルではほぼ同程度の回答率となっている。このように、共通教育に関しては、比較的「曖昧な」満足感というレベルにおいて、性差の存在が確認される。

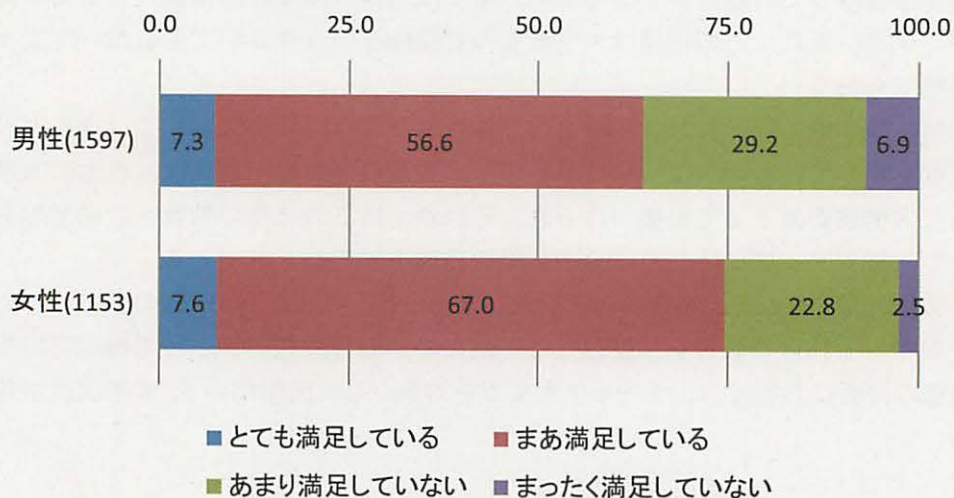


図2-2 共通教育についての男女別満足度 (N=2750)

(3) 学年別

学年別に共通教育の満足度について示したのが、図2-3である。この結果から、1年次から2年次にかけて、満足度（「まあ満足している」）がやや落ち込む傾向が伺える。また、1・3・4年次に関しては、それほど満足度に大きな差は見られないようである。

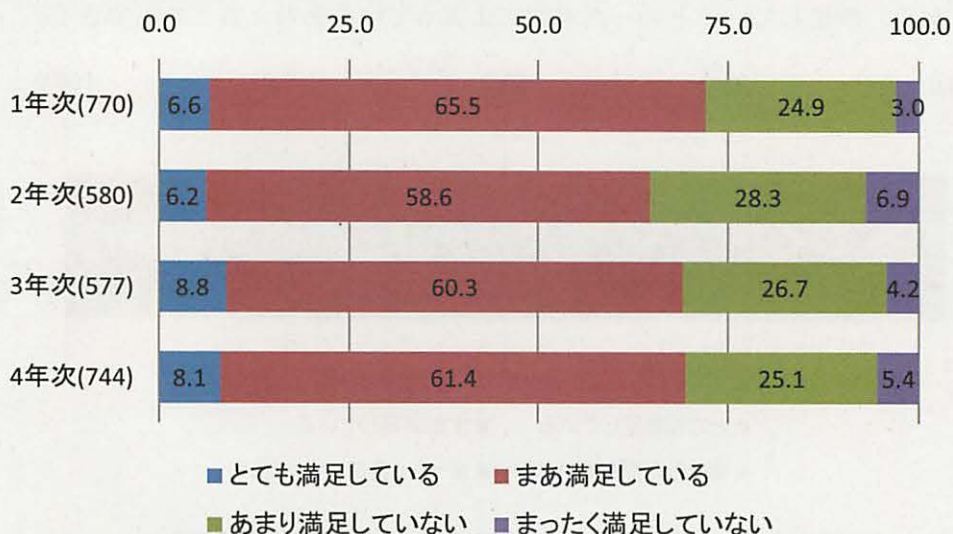


図2-3 共通教育についての学年別満足度 (N=2671)

3. 学部専門教育の満足度

(1) 学生全体

続いて学部における専門教育の満足度について見ていこう。図2-4に示したように、専門教育について「満足している」と答えた学生全体の割合は、76.3%に達している。これは、共通教育の場合より約8ポイント高い数値である。また、より肯定度の強い、「とても満足している」と答えた学生は、全体の16.6%に及んでおり、共通教育のその倍以上の数値となっている。



図2-4 専門教育についての学生全体満足度 (N=2822)

(2) 男女別の分析

図2-5は、専門教育の満足度を男女別に見たものである。この図に示したように、共通教育の場合と同様、女性の方が専門教育について満足している割合が高く、84.0%にまで達している。男性と比較して、約13ポイントもの差が出ている。また、専門教育については、「とても満足している」の水準においても、女性の方が6.5ポイント高い数値を示している。これは共通教育の場合には見られなかった点である。

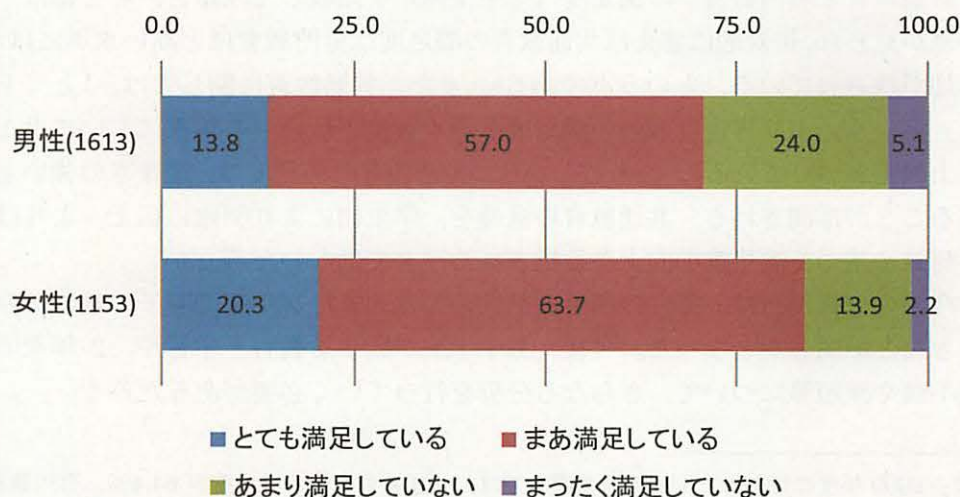


図2-5 専門教育についての男女別満足度 (N=2766)

(3) 学年別の分析

専門教育の学年別満足度について、図2-6をもとに見ていくと、専門教育に関して「満足している」と答えた割合は、1年次から2年次にかけて若干下がる（77.0%→73.6%）ものの、3年次において上昇（76.3%）に転じ、4年次においては8割（80.7%）に達している。ただし、「とても満足している」割合は、1年次から4年次にかけて減少することなく、上昇傾向にある。これは学年が進むにつれて、学生が受講する専門教育科目の数が増え、ますます充実度を高めていることの表れと考えられる。

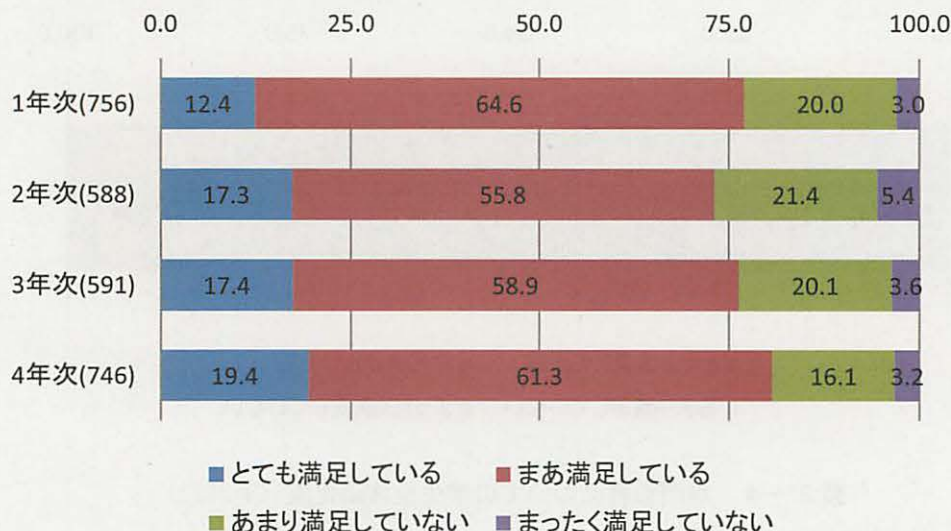


図2-6 専門教育についての学年別満足度 (N=2681)

4. 本章のまとめ

本章では、学生から見た本学の教育（共通教育・専門教育）の満足度について、学生全体、男女別、学年別に概観してきた。その結果、学生からはこれら二種の教育に対して、7割前後という概ね高い満足度が示された。しかし、以下の諸点には注意が必要である。

まず、共通教育と専門教育への満足度（学生全体）を比較してみると、そこには、8ポイントの差が見られ、相対的に言えば共通教育の満足度は専門教育ほど高い水準にはなく、改善の余地が残されている、という点である^a。また、共通教育に関しては、「とても満足している」という、より肯定度の強い満足度を示す数値が低い（4年次においては10ポイント以上の差がついている）。このことから、共通教育の満足度は、曖昧さの強いものとなっていることが推測される。共通教育の意義を、学生側により明確に伝え、よりはっきりとした認識に基づく満足度の向上が目指されるべきではないだろうか。

さらに今回の分析からは、男性の満足度が低いこと、また2年次で若干の落ち込みが見られることなどが明らかとなった。今後、男子学生が欲する教育・学習や、2年次の学生が抱える不満や課題等について、さらなる分析を行っていく必要があるだろう。

^a ちなみに、2009年度に行われた同様の学生調査では、共通教育全体の満足度が64.4%、専門教育全体の満足度が67.3%で、その差は約3ポイントであった（詳しくは、『大学教育センター報』第13号を参照のこと）。調査データの構成の違いは当然考慮しなければならないが、単純に比較すると、今回の学生調査では各種教育への満足度の差がさらに大きくなっていると見ることができる（5ポイントの増加）。